



ほととぎす 鳴くや五月の あやめ草

あやめも知らぬ 恋もするかな

古今和歌集

暑くなって夏の気配がしてきました。山々の木々の緑は人を旅へ誘ってくれるのかもしれません。

3月の風と梅雨を思わせる4月の雨が、美しい5月の若葉青葉をつくってくれます。「素晴らしき哉 五月！」年間を通して最も美しい月は5月といわれます。新緑が芽生え風薫る頃、町中の木々が申し合わせたかのように一斉に芽吹き、街は新緑の色であふれています。

その年に、はじめて聞くホトトギスの鳴き声を初音といえます。「ほととぎす 早もき なきて 忍音もらす 夏は来ぬ…」文部省唱歌の「夏は来ぬ」の歌詞です。ホトトギスはウグイスのよなな美声ではないですが、初音とか忍音というように、なぜか珍重されています。

意外と知られていませんが、5月18日は「ことばの日」です。特に言葉に関する由来があるわけではありませんが、5（こ）と18（10と、8と）の単に数字の語呂合わせです。言葉の日にふさわしいことばが「ありがとう」ならば、この時期ふさわしい花はカーネーションです。「ありがとう」を色に例えると赤色と表現した人がいましたが、その年々によって白色になる人もいます。赤やピンク、薄緑など、美しい花を咲かせるカーネーション。感謝の心を込めて贈る人も多いことでしょう。5月の第2日曜日は「母の日」です。

「母子草」何とも憂いをおびた響きの花です。道端や田畑など、あちこちに生え薄黄色の小さな花を咲かせます。「老いて尚 なつかしき名の母子草」

高浜虚子の句です。

井上靖氏は、5月の曖昧さを随筆に書いています。

「春の百花を咲き誇った饗宴は終わろうとし、夏の烈しい光線はまだ訪れて来ません。私は、春でも夏でもない、どっちつかずのこの短い季節が好きです…」と。大作家の感性は、5月の中ぶらりんの季節を中庸の妙と受け止めているのでしょうか。どっちつかずの短い季節、春でも夏でもないこの時期、街には色とりどりのアロハの季節がやってきます。

「アロハ」には、他人への敬意と思いやりを忘れないようにという、崇高な精神が宿っています。



指宿市長
豊留悦男